

まちづくりWGの作業を終えて

060809 まちづくりWG 主査 田村博美

足かけ2年半にわたる流域委員会の検討の中で、当初より“まちづくりの視点”からも武庫川づくりを検討する必要があることを指摘してきた。当初は委員の中から有志を募りまちづくり部会として自主的活動を始め、武庫川と流域に関わる多様な視点から調査及び分析を行い、その成果を委員会に報告してきた。そのような活動が認知され、委員会活動の重要な作業の一つとしてまちづくりWGが組織され今日に至った。

活動の中で、先ず武庫川と沿川の状況をよく知ることが大切であるとの視点に立って、“武庫川カルテ”づくりを提案し試行的に作成を行った。これを基に治水計画への課題提起、武庫川が育んできた歴史・文化的蓄積を活用した魅力ある武庫川づくりへの提案、まちづくりと一体となった河川整備の提案、流域の流出抑制のための土地利用規制の必要性や土地利用の見直し、武庫川総合治水を流域全体でかつ住民、公共の協働体制で促進するための様々な方策等を検討し提言としてまとめることができた。

提案や提言に至った背景には次のような点がある。今後の武庫川流域都市や農山村の社会や土地利用、人口の動向、従来 of 河川行政や都市行政に対する反省と見直し、多様かつ長年蓄積されてきた武庫川に係る歴史・文化、自然の重さの継承、100年後を目標とした魅力ある武庫川づくり、武庫川の自然景観や文化景観を生かした風景づくりといったことである。

流域委員会、総合治水WT、環境WG、まちづくりWG等の真摯な提言と提案が、今後100年を目標とした新しい武庫川づくりに少しでも生かされること及び武庫川づくりに向け流域住民と関係団体、行政が一体となって積極果敢に取り組むことを願ってやまない。

最後に20回にわたるまちづくりWG会議に参加頂き熱心な討議と貴重なご提案を頂いた委員各位に心から感謝します。